

# 古文ドリル：「ず」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「ず」の正体

打消の助動詞「ず」は、**未然形接続**。活用が変則的なので、活用形を見抜く問題が多い。

活用形	「ず」の形	用例
未然形	ず／ざら	知ら <b>ず</b> して／知ら <b>ざら</b> む
連用形	ず／ざり	知ら <b>ず</b> けり／知ら <b>ざり</b> けり
終止形	ず	知ら <b>ず</b> 。
連体形	ぬ／ざる	知ら <b>ぬ</b> 人／知ら <b>ざる</b> 人
已然形	ね／ざれ	知ら <b>ね</b> ば／知ら <b>ざれ</b> ば
命令形	ざれ	知ら <b>ざれ</b> ！

### 識別の鉄則

1. 直前は必ず未然形
2. 直後を見る：
3. 体言 → 連体形「ぬ／ざる」
4. 「て・して」 → 連用形「ず／ざり」
5. 「ば」 → 已然形「ね／ざれ」（已然+ば=原因・確定）
6. 文末・句点 → 終止形「ず」

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「ず／ぬ／ね／ざり／ざる／ざれ」を見たら直後で活用形が即決

打消「ず」の活用形判定は、**直後の語** だけ見れば9割当たる。 - +体言 → **連体形**「ぬ／ざる」（知らぬ人／知らざる人） - +ば → **已然形**「ね／ざれ」（知らねば／知らざれば） - +して／+けり → **連用形**「ず／ざり」（知らずして／知らざりけり） - +句点 → **終止形**「ず」（知らず。）

「直後で何が来てるか」だけ見れば即答できる。

### コツ② 「ぬ」が来たら直前で打消か完了かを即判定

「ぬ」は **打消「ず」連体形** と **完了の助動詞「ぬ」終止形** の2パターン。 - 未然形+ぬ → 打消「ず」連体形 (散らぬ花=散らない花) - 連用形+ぬ → 完了「ぬ」終止形 (散りぬ=散ってしまった)

四段動詞で「散らぬ／散りぬ」のように **直前の母音が違う** ことに注目すれば一発で見抜ける。

### コツ③ 「ね」も同じく直前で2パターン

「ね」も **打消「ず」已然形** と **完了「ぬ」命令形** の2つ。 - 未然形+ね → 打消已然形 (知らねば=知らないの) - 連用形+ね → 完了命令形 (疾く去りね=早く去ってしまえ)

「～ねば」の形なら99%打消。「～よ／～命令」の文脈なら完了命令。

### コツ④ 「ざり」系は連用形・命令形・補助活用と覚える

「ざり・ざる・ざれ」は **補助活用** (ザリ活用)。 - ざり → 連用形 (～ざりけり) - ざる → 連体形 (～ざる人) - ざれ → 已然形 (～ざれば) / 命令形 (～ざれ!)

「ざ」が見えたら補助活用と即認識する。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「ず／ぬ／ね／ざり系」を見たら **直後** をチェック
2. 直後の語で活用形を確定 (体言→連体、ば→已然、句点→終止、して→連用)
3. 「ぬ／ね」は **直前** が未然形か連用形かで打消／完了を区別
4. 「ざり系」は補助活用と即認識して活用形だけ判定

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 「散りぬ」を打消と誤答 (連用+ぬ=完了)
- 「散らぬ」を完了と誤答 (未然+ぬ=打消連体形)
- 「～ね!」を打消已然と誤答 (命令文脈なら完了「ぬ」命令形)
- 「ざる」「ざれ」を「ぞ」「ば」の係り結びと混同する

## 採点表

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30

- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編

Q1. 次の傍線部「ず」の活用形を答えよ。

我れ知らず。

Q2. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

物言はぬ人。

Q3. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねば、答へず。

Q4. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

物言はずして、立ち去る。

Q5. 次の傍線部「ざり」を識別せよ。

知らざりけり。

Q6. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

花咲かぬ夜。

Q7. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねど、口に出す。

Q8. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

雨降らず。

Q9. 次の傍線部「ざる」を識別せよ。

知らざる人。

Q10. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

食はずして、寝ぬ。

Q11. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

寝られぬ夜。

Q12. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねば、待つ。

Q13. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

Q14. 次の傍線部「ざれ」を識別せよ。

知らざれば、答へず。

Q15. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

嵐山に登らぬ人。

Q16. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

いまだ書かず。

Q17. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

終夜（よもすがら）思ひに沈みて寝ねど、夢は見ず。

Q18. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

風吹かず、波静かなり。

Q19. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ人、世になし。

Q20. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

言はねばこそ、奥ゆかしけれ。

## 【第2部】 標準編

---

---

---

Q21. 「ず」を識別せよ。

行か**ず**、ただ立ち止まる。

---

---

Q22. 「ぬ」を識別せよ。

春来たら**ぬ**山。

---

---

Q23. 「ね」を識別せよ。

物食は**ね**ば、痩せたり。

---

---

Q24. 「ざり」を識別せよ。

知ら**ざり**しを、嘆く。

---

---

Q25. 「ず」を識別せよ。

我れ思は**ず**。

---

---

Q26. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあら**ざる**を、嘆く。

---

---

Q27. 「ず」を識別せよ。

仕うまつらずして、退き出づ。

Q28. 「ぬ」を識別せよ。

言はぬことを、聞く。

Q29. 「ざれ」を識別せよ。

知らざれば、教ふ。

Q30. 「ず」を識別せよ。

我れも来ず。

Q31. 「ね」を識別せよ。

行かねば、ここに居る。

Q32. 「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ夜は、なほさうざうし。

Q33. 「ざり」を識別せよ。

雨降らざりつる夜半。

Q34. 「ず」を識別せよ。

詠まずして、心定まりぬ。

Q35. 「ね」を識別せよ。

物言はねど、目に物言ふ。

Q36. 「ざる」を識別せよ。

心通はざる人。

Q37. 「ず」を識別せよ。

来ずして、待ちぬ。

Q38. 「ぬ」を識別せよ。

名乗らぬ人ぞ怪し。

Q39. 「ね」を識別せよ。

知り給はねば、教ふべし。

Q40. 「ざれ」を識別せよ。

心ある人にあらざれば、これを解せず。

Q41. 「ず」を識別せよ。

我れ語らずして、退く。

Q42. 「ぬ」を識別せよ。

あらはれぬ人。

Q43. 「ざる」を識別せよ。

心定まらざるを、嘆く。

Q44. 「ね」を識別せよ。

我れ知らねばこそ、なほ恋し。

Q45. 「ず」を識別せよ。

いまだ起きず。

Q46. 「ぬ」を識別せよ。

都に住まぬ人ら。

Q47. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりけれども、太れり。

Q48. 「ず」を識別せよ。

風吹か<sup>ず</sup>して、舟止まる。

Q49. 「ね」を識別せよ。

月隠れ<sup>ね</sup>ば、なほ明し。

Q50. 「ざる」を識別せよ。

心通は<sup>ざる</sup>ものなり。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編

Q51. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶え<sup>ず</sup>して、しかも、もとの水にあらず。

Q52. 「ぬ」を識別せよ。

知ら<sup>ぬ</sup>間に春は来にけり。

Q53. 「ね」を識別せよ。

言は<sup>ね</sup>ばこそありけれ。

Q54. 「ざり」を識別せよ。

思ひもよら**ざり**けるを、嘆く。

Q55. 「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつら**ず**して、退きいづ。

Q56. 「ぬ」を識別せよ。

風吹か**ぬ**夜、月清く照る。

Q57. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあら**ね**ば、これを解せず。

Q58. 「ざる」を識別せよ。

嵐の風吹か**ざる**夜、なほ恐し。

Q59. 「ず」を識別せよ。

雨や**まず**して、川あふる。

Q60. 「ぬ」を識別せよ。

我れ詠ま**ぬ**を、人皆怪しむ。

Q61. 「ね」を識別せよ。

思はざるにしもあらねば、口に出す。

Q62. 「ざれ」を識別せよ。

物食はざれば、痩す。

Q63. 「ず」を識別せよ。

心ある人にあらずは、これを解せず。

Q64. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にあらず。

Q65. 「ね」を識別せよ。

君行かねば、待ちわぶ。

Q66. 「ざり」を識別せよ。

詠まざりしを嘆く。

Q67. 「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

Q68. 「ぬ」を識別せよ。

唐土に渡らぬ人ら。

Q69. 「ね」を識別せよ。

心の奥を知らねば、信ず。

Q70. 「ざる」を識別せよ。

物のあはれを解せざる人にあらず。

Q71. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒からず。

Q72. 「ぬ」を識別せよ。

いまだ知らぬことぞ多き。

Q73. 「ね」を識別せよ。

嵐山に登らねば、紅葉を見ず。

Q74. 「ざり」を識別せよ。

心ありし人ならぬもとの世。

Q75. 「ず」を識別せよ。

名乗らずして、立ち去りぬ。

Q76. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ身。

Q77. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねど、心安し。

Q78. 「ざる」を識別せよ。

風吹かざる夜、なほ波静か。

Q79. 「ず」を識別せよ。

我れ詠まずして、口を閉づ。

Q80. 「ぬ」を識別せよ。

心通はぬを嘆く。

応用編 / 30

## 【第4部】 入試レベル

Q81. 「ぬ」を識別せよ。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

Q82. 「ね」を識別せよ。

月の都の人にしあらねば、いかでかかかる目に遭はむ。

Q83. 「ず」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にあらず。

Q84. 「ぬ」を識別せよ。

知らぬを知らずとせよ。

Q85. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねばこそ、これを解せず。

Q86. 「ぬ」を識別せよ。

月の出でぬ夜、なほ暗し。

Q87. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりしことを、後悔す。

Q88. 「ぬ」を識別せよ。

仕うまつらぬこと、限りなし。

Q89. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねば、誰にか頼まむ。

Q90. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあらざるを嘆く。

Q91. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

Q92. 「ぬ」を識別せよ。

心の奥を見せぬ人、世に多し。

Q93. 「ね」を識別せよ。

嵐の音絶えねば、なほ夜更けず。

Q94. 「ざり」を識別せよ。

物のあはれを解せざりしを後悔す。

Q95. 「ず」を識別せよ。

我れ歌詠ま<sup>ず</sup>して、なほ古典を愛づ。

Q96. 「ぬ」を識別せよ。

物言は<sup>ぬ</sup>を尊しとす。

Q97. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあら<sup>ね</sup>ば、これを解せず。

Q98. 「ざる」を識別せよ。

行か<sup>ざる</sup>を選ぶ。

Q99. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒から<sup>ず</sup>して、舟出づ。

合計 / 100

## あとがき

「ず」の識別の核心： - 直前は必ず未然形 - 直後を見る（体言→連体、ば→已然、文末→終止、して→連用） - 「ぬ」「ね」は活用形が違うだけで意味は同じ「打消」

打消の助動詞「ず」は古文の最頻出語。活用変化を完全に暗記すること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

